



第17回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

飛び立て！日本の仲間たち

東京都・開成高等学校 2年 谷澤 文礼

中国でのアジアサイエンスキャンプ、ガーナでのトビタテ！留学JAPANによるボランティア活動。この夏、僕は全く異なる二つの国を訪問する貴重な機会を得た。鮮烈な旅の経験は、これまで当たり前で過ごしてきた日本社会について、深く考察する契機を与えてくれた。

立ち並ぶ高層ビル、広大な電気街、立ち籠める熱気。中国・広東省を訪れた僕は、その都市の活気に圧倒された。中国は、GDPが13兆ドルを超える¹⁾世界第二の経済大国だ。人口世界一位、国土面積世界三位、鉱産資源は鉱種・埋蔵量とも豊富であり²⁾、二十世紀後半の国内体制の改革を経て、経済は急成長を遂げた。この成長を特に牽引したのは、改革開放政策で設けられた深圳などの経済特区であり、僕の訪れた広東省には深圳、珠海、汕頭など多くの経済特区があり、ここは、いわば「中国のシリコンバレー」である。顔認証を始め、想像のはるか上をいく発展を遂げている中国に、僕は驚愕した。

かつて日本も、世界第二の経済大国と呼ばれていた。しかし1990年代の経済低迷を経て、今の日本では社会の閉塞感が高まり、将来を不安視する意見が声高に叫ばれている。総人口の減少、輸出の低下、産業競争力の弱体化、国内産業の空洞化、財政収支の赤字、地方の疲弊、医療・社会保障費用の増大、エネルギー・食料問題の深刻化。立ち現れる数々の課題に戸惑い、訪れる未来に不安を感じる人が増えている。国立社会保障・人口問題研究所の見立てでは、2065年に、日本の人口（出生中位推計）は8,808万人、2115年には5,056万人まで減少することになっている。日本の人口はこれから100年で半分以下まで減少するわけだ。そしてこの間には、高齢化も同時進行する。老年人口割合は、2036年に33.3%で3人に1人となり、2065年には38.4%すなわち2.6人に1人が老年人口となると見込まれている³⁾。中国でも一人っ子政策の影響による急速な高齢化が懸念されているが、日本の10倍以上の人口を抱え

る、活気に^{あふ}溢れた中国社会と日本のそれとでは、課題の深刻さが違う。今後の日本では、年金や医療などの社会保障制度の維持が困難になり、財政は圧迫され、地域社会が消滅していくという、深刻な課題に対処していかなければならない。

日本に明るい未来はないのだろうか。確かに、生産年齢人口が減少するのだから、このままでは日本経済は成長せず右肩下がりとなろう。しかし、技術革新は異なる予測を可能とするはずだ。例えば、高度経済成長期の日本では、15年間、年平均10%の成長を遂げていたが、実は、この期間の人口の増加はわずか年平均1%の伸び率であった。つまり、この時期の成長の大半は、労働生産性の上昇が寄与していたのだ⁴⁾。人口が減少する中、日本の将来を切り拓くためには、イノベーションによる技術革新で勝負しなければならない。AIやIoTによる指数関数的な科学技術の進歩が生み出す新たな社会は、シンギュラリティが到来する可能性すら見えてきている。技術革新は、労働や生産の意味や必要性を変え、全く新たな社会を生み出す。例えば、かつては人が手動で切っていた改札も、今やほとんど全ての駅には自動改札機が普及した。また、大手コンビニエンスストアは、セルフレジの導入を決定した。人口減少による人手不足という喫緊の課題も、歴史的に見れば一過性のものと評価されることになるのかもしれない。日本が抱える社会問題は深刻だが、悲観的にならず、中国社会のパワーを見習って、社会が一丸となってイノベーションに取り組んでいくことで活路を切り拓いていかなければならない。

中国の経済成長を引っ張る「中国のシリコンバレー」を築いたのは、「海亀」と呼ばれる若きエリート人材たちだ。中国からアメリカなどの海外へと渡り、そこで得た知識や技術を母国へ持ち帰る「海亀」。彼らの存在が、ハイテク分野での中国の成長を支えてきた。中国が国家戦略として掲げる「中国製造2025」。ハイテク分野で世界のトップクラスになることを目指し、中国は、「海亀」たちを国をあげて後押ししてきた。起業時の資金補助等の国の手厚い支援により、「海亀」はこの5年で200万人を超えたという⁵⁾。

日本でも再び海外留学をする学生を増やし、彼らが最先端の技術を身につけ、日本へ戻ることにより、日本経済の成長を牽引することが期待できるはずだ。日本の生産年齢人口は、7,728万人と中国の8億人と比べると圧倒的に少なく、半世紀後の2065年には4,529万人（出生中位推計）にまで激減すると考えら

れている³⁾が、このことにより悲観する必要はない。4,500万人という数は、世界的に見ると、ドイツの生産年齢人口よりは少ないとはいえ、イギリス・フランスよりは多いレベルだ。日本の未来を切り拓くためには、若者が海外へ雄飛しなければならない。国民一人一人が見聞を広め、最先端の技術だけでなく、答えの与えられていない来る未来に立ち向かえる論理的思考力や創造性、対人関係能力を習得することこそ肝要だ。海外志向の抜本的な教育改革を行い、日本人の個々の力を高めることにより、長い目で見た日本の経済成長が実現することだろう。

中国からの帰国後、日本社会の将来について、こんなことを考えながら、次に僕は、ガーナへと旅立った。インフラの整備が不十分であること、衛生が行き届いていないこと。ガーナはどんな国なのかを入念に下調べして行ったつもりであったが、実際にその状況に直面すると、僕はとてつもない衝撃を受けた。ほとんどの道路は舗装されておらず、比較的裕福な家庭でも水道は通っていない。トイレもシャワーもタンクに溜めた冷たい水を、バケツで汲んで使用する。ケアセンターの子供達は、手を洗うということを知らず、それを教える大人もいない。手を洗うために必要な水は濁っていて、石鹸も十分にはない。日本で常識と考えられている、その根底部分から全く異なる現状に言葉が出なかった。

ガーナで驚いたことがあった。日本の満員電車が有名だったのだ。嬉しくなつて、インターネットで検索した電車内の写真を見せた時、尋ねられた。「この人たちは幸せなのか」と。日本の社会は、経済的に発展しており、豊かで物に溢れている。しかし、彼らは、人間にとって大切なことは何なのかを理解していた。豊かさに溢れた車両の中で、身ぎれいな衣服に身を包みながら、ぎゅうぎゅうと押し詰められている乗客の目に浮かんだ悲哀や疲弊を見抜いていたのだ。彼らから教わった。自分たちは、物がなくても、貧乏でも、楽観的に考え、毎日楽しく生きていることが最も大切なのだと理解している。この満員電車の乗客は、未来に希望を持ち、人生を楽しんでいるのだろうか。

日本の自殺者数は年間2万人を超えている。これは世界でもかなり高い自殺率だ⁶⁾。通学中に電車で周りの顔を見ると、睡眠不足で疲れた顔をよく見る。車内の乗客はあまり笑わず、いつも何か心配事があるような顔をしている。これに比べると、ガーナでは、道ゆく人々が皆笑顔で楽しそうだったことが印象

的だった。

中国には圧倒的な豊かさがあつた。しかし経済的な豊かさが、日本人の幸福に繋がるのだろうか。そもそも、日本人は何のために頑張っているのか。幸福とは何なのか。

二つの国への旅の後、日本での日常に戻つた。学校では、皆が黙々と勉強している。友達に、なぜ勉強をするのかと尋ねても、わからないとの答えが多い。日本の最近の調査の結果では、大学に行く理由としては、「周囲の人が皆行くから」という人は41.1%、「大卒の学歴がほしいから」という人は67.2%だった⁷⁾。「就きたい職業が決まっている」高校生は36.7%⁸⁾、70.4%が「目指している人やあこがれている人はいない」と答え、49.4%が「自分がどうなってしまうのか不安である」と感じているという⁹⁾。大学受験に受かるため、日本の高校生が受験勉強をすることは当たり前になっている。そして大学でも就職のために勉強をし、就職してからは、お金や生活のため、好きでもない仕事を続けていく。こうした社会観、人生観が共有され、日本人は人並みの平凡な仕事を選び、夢や希望がなく¹⁰⁾、将来に不安を抱きがちな傾向にある。米国で、特殊な技能や知識をもつ、独立性のある仕事が理想とされていることと、とても対照的だ。義務感で受け続けた教育の先に、義務感で働く仕事を続ける人生ではなく、人生を楽しむための仕事を皆が選べる社会を目指したい。難しい課題だが、打たないシュートは入らない。

かつての日本人は勤勉で、一生懸命働き、今の日本を建設した。ただ、会社や組織への貢献が優先してしまい、そのひずみも経験してきた。明治以降のキャッチアップの思想に戻る必要はない。一人一人が幸せだと思ふ国を目指して、新たな発想で、仲間たちと世界へ羽ばたきたい。

(注)

1) 外務省 国・地域 アジア 「中華人民共和国」基礎データ

URL <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/data.html> 閲覧日 2019年9月2日

2) 『データブック オブ・ザ・ワールド 2018』二宮書店、2018年1月10日

3) 国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口(平成29年推計)」

URL http://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/pp29_gaiyou.pdf

閲覧日 2019年9月2日

- 4) 野中郁次郎編著『野中郁次郎 ナレッジ・フォーラム講義録』 東洋経済新報社、2018年7月5日
- 5) NHK ニュースおはよう日本 けさのクローズアップ「中国の急速な技術開発支える“海亀”」
URL <https://www.nhk.or.jp/ohayou/digest/2019/01/0131.html> 閲覧日 2019年9月2日
- 6) 厚生労働省「平成29年版自殺対策白書」第2章「第3節 諸外国における自殺の現状」
URL <https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/jisatsu/17/index.html> 閲覧日 2019年9月2日
- 7) 株式会社ベネッセコーポレーション「平成17年度 経済産業省委託調査 進路選択に関する振り返り調査 - 大学生を対象として - (2005年)」第2章「1. 大学への進学理由」
URL <https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=3170> 閲覧日 2019年9月2日
- 8) マイナビ ニュースリリース 2015年「2015.08.18 マイナビ進学『高校生のライフスタイル・興味関心調査』を発表」
URL https://www.mynavi.jp/news/2015/08/post_9516.html 閲覧日 2019年9月2日
- 9) 社団法人全国高等学校PTA連合会 株式会社リクルート合同調査「第4回『高校生と保護者の進路に関する意識調査』(2009) 報告書」
URL http://souken.shingakunet.com/research/2009_hogosha_report.pdf
閲覧日 2019年9月2日
- 10) 文部科学省「21世紀の夢調査(財団法人日本青少年研究所実施 平成11年)」
URL http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu10/siryo/attach/1335655.htm
閲覧日 2019年9月2日

<参考文献>

外務省 国・地域 アフリカ 「ガーナ共和国」

URL <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ghana/index.html> 閲覧日 2019年9月2日

